

釜ヶ崎しんまい者雑感

K. A

日ドヤに泊ったときのこと……朝に、ドアを強くノックする音で起こされた。時計をみたら七時でした。内側の錠はずすと、ドアは勢いよくあけられ、枕もとから数センチ先のろうかには、小学生くらいの女の子が立っていました。看護婦がカルテをもっているのに似たかっこうで、何やら記入する板紙をかかえ、まだ完全にさめやらす目をしよぼつかせていたぶんガマガエルのようにはいつくばっていたおれを、みおろしていました。いや、みすえていたといったほうがいい。かわいいた女の子だったけれど、そうして立っている姿はやっぱり立派なドヤ主です。

「今日の泊り賃、はよいれてや」
女の子がドヤ代を請求するのは、商売の成りたち上正當だし、おれもただちに払わなければならぬのだし、そのときは四〇〇円など簡単に払えた……けれど、そんな事務的なことですっきりかたずかない気持が、おれのねおきの不快な顔をさらに不快にした。

雑にばらまいて、早々にひきあげていったあとの半分固くなった生コンを、たらたら文句いいながらならしたり（残棄だった）……といったことなどをいちどきに経験すると、鈍感に空気を吸っていたおれの皮ふも少しは目がさめるといふものです。

釜に住みはじめて、手にとるように感じたことは、めしやとかのみやが多いこと（多く集まっている、ということだろうけど）、ちょっと歩いたらいたるところにある。

ふちやも近くにいくつかあって、夜おそくまでやっているのはいい。今まで四ヶ所利用したが、今のところ、入船温泉が大きくてきれいなので一番気に入った。こうしてみると、生活の基本的なことに直接関係ある商売が、せまい地域に数多く集っていて、ほんの一足で利用できるのも便利だけれど、これも一にも二にも金があつての話だ。

逆に、これら集っているいろんな種類の商売によってくらしのわく組みが決められてしまうようにも思う。

とにかく、部屋にじっとしていることが生理上受けつけないので、しょっちゅう外に出る。

旅館、ホテル、などと名がついていても、今までおれが泊ってきた多くのそれと容あつかいがまったく違ふし、それに、前の晩寝る前に、いわゆる市民社会の旅館の部屋の広さ、設備、待遇などとあれこれ比べてみて、二畳個室四〇〇円は安くない、と結論をだして寝たばかりだった。

そして朝には、ねぼけづらでガマガエルのようにはいつくばる姿を、高みから観賞されなければならなかった、というわけです。

ドヤ初心者のおれは、これにはまいった。高い金払って部屋借りるんだから、立派に客づらしようと思うんだが、まったくそうはいかないところだ、ということがいまくわかった。

今はだいがなれたが、最初に、朝のセンターに行き、ずらっと並んだ車の前をうろうろして土工雑役、現金四五〇〇円に乗りこむまで緊張ものだった。

建設現場のシャキッとした制服を着た若いお兄さんの高まんなきなものの言い方にけったくそのわるい思いをし、未舗装道路に昨夜の雨でたまった泥水を、スコップとバケツで四時半のあたりまでかいだして、//ほこりもなにもあつたもんじゃない//とつぶやき、いたるところ

歩きまわっているうち、少しづつ釜の地図がおれの頭のなかでできあがってきた。

夜とか日曜の昼は人間が多いし、道ばたでいろんな商いをやっているから、それをみて歩いてみるとけっこうたいくつしのぎにはなる。今のところ、一番遠くへ足をのばして、新世界まで。浪速クラブと朝日座でおじいちゃん、おばあちゃんらと一緒に、唄とおどりとしばいを見て時間をつぶしてきた。

そうやっていても別にさびしさがふっさけるわけではないが、それでもけっこういろんなことに出会うから、部屋にいるよりはずっとずっとましだ。

毎ヨ必ずのようにみる、〇のりあいことつきあい、顔から血をしたたらせているおっさん、腰つきよろしく歩いているヒゲをはやしたおねえさん、歩いている足もとに寝ている人、公園でじっとしている人、おれの部屋の下ののみやで毎晩きこえる大声と高笑い拍手子（浪曲子守歌と軍歌はよくきく）……：：：感じをいっただら、ごったませで、飾るものがない、というのか、むきだし、というのか。むきだしがいいか悪いかは別として、おれはむきだしが体質にあつてるとし、好きだ。けれど……：：：
気楽になじみたいと思つています。